

タイトル	2026 年度 学校推薦型選抜 共同教育学部（芸術・生活・健康系 保健体育専攻） 面接・小論文
評価の ポイント	【面接】 教育および保健体育に関する基本的知識や課題に対する思考力、判断力、表現力等を評価した。評価にあたっては、次のような点を特に重視した。 ・ 問題に対する基礎的知識と理解度 ・ 論理性 ・ 表現力 ・ 将来性（大学の学びに対して意欲的であるか） 【小論文】 「水難事故」に関する課題意識や解決の手立てなどについて記述内容を評価した。評価に当たっては、次のような点を特に重視した。 水難事故について、その記述内容が適切であるかどうかや、学校現場における水難事故防止の手立てについて、具体例をあげるとともに、内容が適切であるかどうか。

小論文解答例

水難事故においては多くの方がなくなっており、令和6年度は、事故件数1535件中、約半数の816件が死者・行方不明者である。中学生以下では、水難事故129件中、死者・行方不明者は28名と年齢を問わず事故にあっている現状があることから、学校現場において水難事故の正しい知識を身に着けることは、水難事故防止を考えるうえで重要な要素である。

水難事故防止のための手立てとして、身近に潜む水難事故の起こりやすい場所や、どのような際に事故が起こるのかについて、グループ学習や、地図の作成などを通じて、身近な問題としてとらえてもらうことが重要と考える。水難事故は、大きな川や海でおこるだけでなく、身近にある池や用水路などでもおこる可能性がある。また、大人といれば防げるとは限らず、子どもが溺れた際に、助けに入った大人が溺れてしまう事故も考えられる。身近に潜む危険について考える機会を持つとともに、どのようにすれば事故を防ぐことができるのか、子ども同士で意見を出し合うことで、具体的な予防方法について考える機会となる。また、実際に水辺での安全対策や、怖さなど、実際に体験する機会として、プールにおける着衣泳や、ライフジャケットをつけた際の浮力の体験、溺れている人を見つけた際の救助方法など、座学において知識を身に着けるだけでなく体験を通じて学ぶ機会を設けることで、水難事故の防止につながると考える。

(591字)